

<事務局便り>

平成 24 年度炉物理部会運営委員

氏名	役職	所属
岩崎 智彦	部会長 (任期 1 年)	東北大学
岡嶋 成晃	副部会長(任期 1 年)	原子力機構
高橋 利昌	庶務幹事(任期 1 年)	東北大学
辻本 和文	庶務幹事(任期 2 年)	原子力機構
北田 孝典	部会等運営委員会担当運営委員	大阪大学
高木 直行	編集委員会担当運営委員	東海大学
奥村 啓介	HP 担当幹事	原子力機構
小嶋 健介	HP 担当幹事	原子力機構
大岡 靖典	財務小委員会担当幹事(任期 1 年)	原子燃料工業
佐野 忠史	財務小委員会担当幹事(任期 2 年)	京都大学原子炉実験所
木村 佳央	編集小委員会担当幹事(任期 1 年)	中電シーティーアイ
桐村 一生	編集小委員会担当幹事(任期 2 年)	三菱重工業
岩崎 智彦	セミナー小委員会担当幹事(任期 1 年)	東北大学
岡嶋 成晃	セミナー小委員会担当幹事(任期 1 年)	原子力機構
遠藤 知弘	学術交流小委員会担当幹事(任期 1 年)	名古屋大学
郡司 智	学術交流小委員会担当幹事(任期 2 年)	東芝
谷中 裕	学生・若手小委員会担当幹事(任期 1 年)	原子力機構
田淵 将人	学生・若手小委員会担当幹事(任期 2 年)	原子力エンジニアリング

(各役職の担当内容については、運営小委員会内規をご覧ください。)

編集小委員会からの御願い

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の原稿として、「部会員の声(自由投稿欄):内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しています。また、部会ニュース(ホームページに掲載)の原稿もございましたらお知らせください。

連絡先:編集小委員会(会報担当)

木村 佳央 [kimura.yoshio\[at\]cti.co.jp](mailto:kimura.yoshio@cti.co.jp)

桐村 一生 [kazuki_kirimura\[at\]mhi.co.jp](mailto:kazuki_kirimura@mhi.co.jp)

[at]はアットマークと読み替えてください。

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿に基づいて作成しております。学会名簿は、部会報の郵送、部会メーリングリストの発信先Eメールアドレスなどに使用されます。勤務先、メールアドレス等に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをして頂くようお願いいたします。

第 37 回炉物理部会全体会議議事録

日時：平成 24 年 9 月 20 日（木）12:00-13:00

場所：日本原子力学会 2012 秋の大会（広島大学 東広島キャンパス）

(1) 炉物理部会賞贈呈式・・・ 部会長

2012 年度分下記 2 名の受賞式を行った。

●東京工業大学 Byambajav munkhbat 氏

【受賞理由】候補者は直近の 3 ヶ年において、原子力学会年会、英文論文誌等学術雑誌での積極的な成果発表を行っている。その中で半導体材料を既存原子炉で製造する場合の炉心設計等について成果が公表されている。このような精力的な研究実績と、今後の本研究の発展（他に類を見ない、より大口径で均一な半導体製造の実現）が期待できる。

●(株) 東芝 伴 雄一郎 氏

【受賞理由】候補者は直近の 3 ヶ年において、原子力学会年会、英文論文誌、国際学会等での積極的な成果発表を行っている。その中で動特性の数値解法について独自性が高くかつ合理的な解析手法を提案している。今後は、より多くのベンチマーク問題や臨界試験に対する適用を行っていくことでさらなる発展が期待できる。

(2) 平成 23 年度炉物理部会収支報告…財務小委員会担当幹事

財務担当幹事より平成 23 年度炉物理部会予算案を報告した。格別の議論はなく、了承された。

(3) 平成 24 年度炉物理部会予算案…財務小委員会担当幹事

財務担当幹事より平成 23 年度炉物理部会予算案を報告した。PHYSOR への支出計画が新たに食わっている旨の報告があった。異論なく了承された。

(4) 第 44 回炉物理夏期セミナー報告…セミナー小委員会担当幹事

セミナー幹事から、セミナー実施内容の概要報告と会計報告があった。詳しくは、炉物理部会

季刊誌にて報告されるとのことである。

(5) 日韓合同セッション・・・学術小委員会担当幹事殿

学術研究交流小委員会担当幹事より、次期「春の学会」での日韓セミナーに関する計画が報告された。

(6) PHYSOR2014 の件・・・部会長他

部会長より、2014年のPHYSOR(ANS Reactor Physics Topical Meeting)に関する進展状況の報告があった。順調に進展しているとのこと。

(以上)

編集後記

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震から 2 年が経ちました。時間の感じ方は人それぞれですが、長くも短くも感じます。巻頭言にて岩崎先生にいただいた言葉のように、我々は時が来るのを待っています。しかし唯々待つばかりではなく、然るべき時のために様々な意味でのエネルギーを蓄えているところだと思えます。

さて、平成 24 年度の「炉物理の研究 (第 65 号)」の編集も無事終了し、会員の皆様のお手元にお届けできることができ、原稿の執筆にご協力頂いた方々に心からお礼申し上げます。

今回の第 65 号で紹介させていただく特集 1 では、炉物理国際会議「PHYSOR2014」への取り組みについて、日本原子力研究開発機構の岡嶋様、名古屋大学の山本先生に日本での開催に至った経緯を紹介頂いています。特集 2 では、今を活躍する若手教育者 3 名に読み応えある率直な意見を頂いています。特集 3 では、日韓炉物理/核データ合同ワークショップの記録を是非残しておきたいと寄稿頂きましたので、その報告書および予稿集を掲載しております。また、本号でも第 61 号から続けている炉物理部会賞を受賞なさった、今・これからの活躍が期待されている若手の方々に寄稿いただき、炉物理部会報の更なる充実に貢献して頂きました。このような炉物理部会員の方々からの投稿は、良い刺激となり炉物理分野の活性化に繋がると思いますので、今後も部会員の皆様には積極的に投稿して頂ければと思います。特に今号では名古屋大学の遠藤先生には多大な労力をお掛けしました。改めて御礼申し上げます。

また、炉物理夏期セミナーの報告においては本編および若手のエンジニア、学生向けにアンケートが集約されています。特に震災を通して、若い世代の考え方にどのような変化があったのかを知ることができます。企画していただいた辻本様・谷中様に御礼申し上げます。

私自身、運営委員に参加して得られた経験は大きく、初心の大切さを再認識することができました。今後は、この経験を生かし、炉物理部会の発展や日本の原子力の発展と復興に貢献して行きたいと思っております。

最後になりますが、「炉物理の研究 (第 65 号)」がより多くの方々に興味を持って頂ければ幸いです。

(編集小委員会：木村 佳央)